

■バルト諸国：ロシアからの送電線遮断でバルト諸国の電力系統に影響

エストニアの系統運用者 Elering 社は 2012 年 8 月 24 日付プレスリリースで、ロシアによる突然の送電線遮断が、バルト諸国の電力系統に影響を与えたことを伝えた。Elering 社によると、2012 年 8 月 19 日に、ロシア側が周辺国の系統運用者との相談なしに、330kV 送電線を遮断した（この件に関してロシアの送電会社からのコメントは得られていない）。これは送電線の保守作業に伴う遮断と伝えられるが、Elering 社によると、同様の事象が 6 月初旬にも生じていた。今回、これに対応して、バルト諸国内の電力潮流管理の目的で、エストニア・ラトビア間の南北連系線の可能送電容量が一時的に引き下げられたが、ラトビアのさらに南に位置するリトアニアでは一時、電力スポット価格が通常の 3 倍の水準（最高で 200.59 ユーロ/MWh、2012 年 8 月 20 日・12:00~13:00）に高騰した。リトアニアでは、国内発電電力量の大半を賄っていた原子力発電所を、EU 加盟条件として段階的に閉鎖して以来、国内電力需要の約 5 割を近隣諸国からの輸入に頼っている。現在、旧ソ連系統の一部に組み込まれているバルト諸国にとって、EU 諸国との連系強化は重要な課題に位置付けられている。